







# わかやまのかき・もも作りと 農業を支える人を育てる学校を 調べよう!!

## ◎日本一のかき作り

和歌山県のかきの生産量は日本一です。そのなかでも、ここ、かつらぎ町は県内でいちばんたくさんかきを作っています。

わたしは、日あたりがよい広い畑で、あまがきふ ゆうの「富有」や、しぶがきひらの「平たねなし」、「とねわせ」などを、土作りや肥料ひりょうなどにこだわって作っています。12月から3月は、せんていの時期です。4月中ごろには、なるべく実が下を向くように、上を向いたつぼみをつみ取ります。8月初めごろから、1本の枝にいくつ実を残すかを考えて摘果てきかをします。そして、9月から11月に、いよいよ収かくしゅうかくをします。



かつらぎ町ではたくさんのかきをどのように作っているのだろう。



## ◎ももの里さとのもも作り

紀の川市ももやま桃山町のもも作りは、およそ230年前に村垣弥惣八むらがきや そはちという人が大阪からもものなえ木を持って来て植えたのが始まりといわれています。



このあたりの土地は、砂すなをふくんだ水はけのよい土です。また、気温が高く、雨が少ないので、もも作りにむいています。大きくて味のよいももにするためにつぼみの数をへらします。実の数もへらし、その後、一つ一つに袋をかぶせて育てます。

紀の川市桃山町はもも作りで有名ですが…。



## ◎和歌山県の農業を支える人を育てる

わかなさんたちは、農業について学ぶことができるかつらぎ町にある和歌山県農林大学校をたずねました。



県農林大学校  
玄関



校内のハウス



野菜コースの実習



果樹コースの実習



「果樹園やビニールハウスがたくさんあるね。」



「学生さんが、いろいろな作業をしているね。」

果樹コースの実習で、かきの収穫作業をしている学生さんに、お話をうかがうことができました。



「なぜ農林大学校に進学しようと思ったのですか。」



わたしの祖父母がもも農家の後つぎをさがしていたことと、高校の文化部の活動で、和歌山県の農業のみ力を感じたからです。



「農林大学校では、どんなことを勉強しているのですか。」



教室での講義だけでなく、果樹・野菜・花の3つのコースに分かれて、実習があります。収穫作業が一番楽しいです。しっかり世話をしよよい品質のものができたときは自信につながります。